

(仮称) 西脇多可新ごみ処理施設建設工事 ～進捗状況～

1. 背景と目的

現在、西脇市及び多可町（以下「両市町」という。）のごみ処理を行っている施設（以下「みどり園」という。）は、1996（平成8）年の供用開始から長年が経過しており、新しいごみ処理施設の整備が必要となっていました。このことから、両市町は2016（平成28）年8月に新ごみ処理施設整備に関する基本合意書を締結し、1市1町の枠組みで新しいごみ処理施設を建設することを決定しました。



※イメージ図は、変更になる場合があります。

2. 基本方針

施設整備の基本方針

- ① 循環型社会の形成に寄与する施設
- ② 周辺環境にやさしい施設
- ③ 安全・安心な施設
- ④ 住民から信頼される施設
- ⑤ 経済性・効率性に配慮した施設

3. 将来のごみ処理体系

新ごみ処理施設でもみどり園と同様の区分で収集、処理を行います。



4. 建設地

建設地は、多可町役場から西に約1.8km、山地斜面に囲まれた谷地で翠明湖の北端に隣接した位置となっています。

位置：多可町中区奥中、徳畑地内



6. エネルギー回収施設の 処理方式等

処理方式：焼却方式（ストーカ式）
 炉形式：連続炉
 （1日24時間連続稼働）
 系列数：2炉構成
 （1炉当たり26.3t/日）

5. 施設規模

将来ごみ量の推計及び災害廃棄物を考慮し、設定した施設規模は次のとおりです。

エネルギー回収施設：52.6t/日
 （可燃ごみ処理施設）
 リサイクル施設：7.5t/日

＜焼却方式（ストーカ式）の概要＞

投入されたごみは、火格子の上を移動しながら、乾燥、燃焼、後燃焼の過程を経て、焼却灰の大部分は炉下灰として排出されます。

国内において最も歴史が長く、処理規模を問わず多くの実績があり、技術の熟度は最も高い方式で、燃焼管理や除去技術の進歩により、ダイオキシン対策も確立されています。

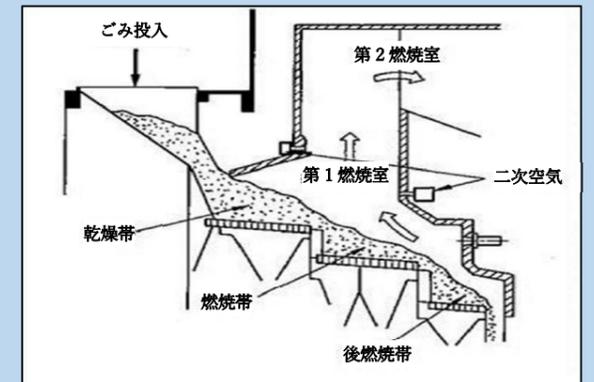


図 焼却方式（ストーカ式）の例

7. 余熱利用

回収した熱エネルギーは温水として利用し、場内での有効利用を優先しつつ、場外への温水供給を併せて行うことで、循環型社会形成の推進に貢献できる施設として整備しています。

8. 処理水及び雨水の利用計画

施設内で発生した排水（プラント排水、洗車排水及び生活排水）の全量を処理し、この処理水をガス冷却水やプラントホームの洗浄用水等、施設内で再利用することで、排水を公共用水域に放流しない「完全無放流（クローズドシステム）」です。

また、敷地内に降った雨水の一定量を雨水貯留槽に一時貯留し有効利用します。

排水：クローズドシステム（完全無放流）
 雨水：雨水貯留槽を設置

9. 環境保全

施設周辺集落（奥中・徳畑・高岸・茂利・中村町）と環境保全協定を締結しています。自主規制値を遵守し、環境保全の徹底を図ります。

(1) 排ガスの自主規制値

法規制値やみどり園の自主規制値、他施設の自主規制値を踏まえ、周辺地域の生活環境の保全を重視し、自主規制値を設定しています。

項目	排出基準値	新ごみ処理施設の自主規制値
ばいじん (g/m ³ N)	0.15	0.01
硫黄酸化物 (ppm)	4,500 相当	50
窒素酸化物 (ppm)	250	50
塩化水素 (ppm)	430	50
(mg/m ³ N)	(700)	(82)
全水銀 (μg/m ³ N)	30	30
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	5	0.01

※年4回測定

(2) 悪臭、騒音、振動、ばいじん及び焼却灰の自主規制値

各種関係法令における法規制値を、自主規制値として設定しています。

※年1回測定

(3) 排水の自主規制値

排水については、クローズドシステムを採用していることから、自主規制値の設定を行いません。

また、雨水貯留槽の貯留量を超える雨水については調整池を経由して公共用水域へ放流し、放流水は水質汚濁防止法に準じて管理します。

※年4回測定

10. 整備する主な施設

エネルギー回収施設、リサイクル施設、管理啓発棟、計量棟、車庫棟、雨水貯留槽 など

11. 設備

【エネルギー回収施設】

計量機 : 2台（往路用：1台、復路用：1台）
 投入扉 : 3基（ダンピングボックスは別途1基設置）
 ごみピット容量 : 2,012m³以上（約7日分のごみを貯留可能）
 煙突高さ : 59m

【リサイクル施設】

ストックヤード : 必要貯留容量 281m³、必要貯留面積 259m²

12. 事業方式

稼働開始までの期間短縮ができ、稼働後の運営経費軽減が期待できる「設計（Design）」、「建設（Build）」を公共が行い、「運営及び維持管理（Operate）」を民間に長期包括的に委託する「長期包括方式（DB+O方式）」を採用しています。

事業方式：長期包括方式（DB+O方式）

13. 発注方式

ごみ処理施設の建設には、高度な技術や機器の導入が必要となることから、発注方式は技術提案の評価が行える、「プロポーザル方式」を採用し、令和5年にエスエヌ環境・美樹工業特定共同企業体と契約しました。設計期間を経て、令和6年8月より建設工事に着工し、令和8年3月竣工に向けて現在工事を進めています。

発注方式：プロポーザル方式

14. 新ごみ処理施設建設工事費及び財源

(1) 新ごみ処理施設建設工事費

急激な賃金水準や物価水準の変動に伴い、インフレスライド条項に基づき、契約金額の変更を行いました。

<エネルギー回収施設>	約63億 8,000万円
<リサイクル施設>	約26億 2,000万円
<<合計金額>>	90億 464万4,000円

(2) 財源計画

新ごみ処理施設の建設には、国の交付金を活用しています。

また、交付金に加え、地方債（一般廃棄物処理事業債）、一般財源（市町負担金）で賄っています。

財源計画の内訳

交付金交付対象事業費			交付金交付対象外事業費	
交付金 (交付対象事業費の 1/3)	地方債 (交付対象事業費-交付金)×90% <交付税措置：50%>	一般財源	地方債 (交付対象外事業費×75%) <交付税措置：30%>	一般財源

全体配置図



計量棟
持ち込まれたごみの重さを計測・記録します。

車庫棟
ごみ収集車専用の車庫となります。

洗車棟
ごみ処理施設棟の裏に、ごみ収集車を洗車する「洗車棟」もつくります。

ごみ処理施設棟
ごみの焼却やペットボトル等のリサイクルを行います。

管理啓発棟
ごみ収集・運搬等に関する受付・事務を行うほか、販売（リサイクルショップ）・啓発活動等も行います。

ストックヤード・コンテナ貯留ヤード棟
分別回収されたビン類を一時保管します。

市水処理場A (坂本地区下部) 市水処理場B (川下部)

新ごみ処理施設整備事業の進捗状況

1 敷地造成工事関係

《1工区》（仮称）西脇多可新ごみ処理施設敷地造成工事

工事請負業者：榊森崎組

工 期：R 4.10.12～R 6. 3.25

《2工区》（仮称）西脇多可新ごみ処理施設2号調整池整備工事

工事請負業者：貴宏建設(株)

工 期：R 4.10.12～R 6. 3.25

着工前（撮影日：令和4年11月7日（月））



工事が完成しました。

敷地造成工事完了（撮影日：令和6年3月22日（金））



《1工区》



《2工区》



2 （仮称）西脇多可新ごみ処理施設敷地造成工事ほか現場技術業務委託

敷地造成工事が完了したことに伴い当委託業務も終了しました。

委託業者 協和設計(株)神戸支店

工 期 R 4.11. 1～R 6. 3.29

3 建設工事関係

(仮称) 西脇多可新ごみ処理施設建設工事

工事請負業者：エスエヌ環境・美樹工業特定共同企業体

施工管理業務：中外テクノス株式会社 関西技術センター

敷地造成工事完了 (撮影日：令和6年3月22日 (金))



施設建設工事が
始まりました。

撮影日：令和6年8月23日 (金)



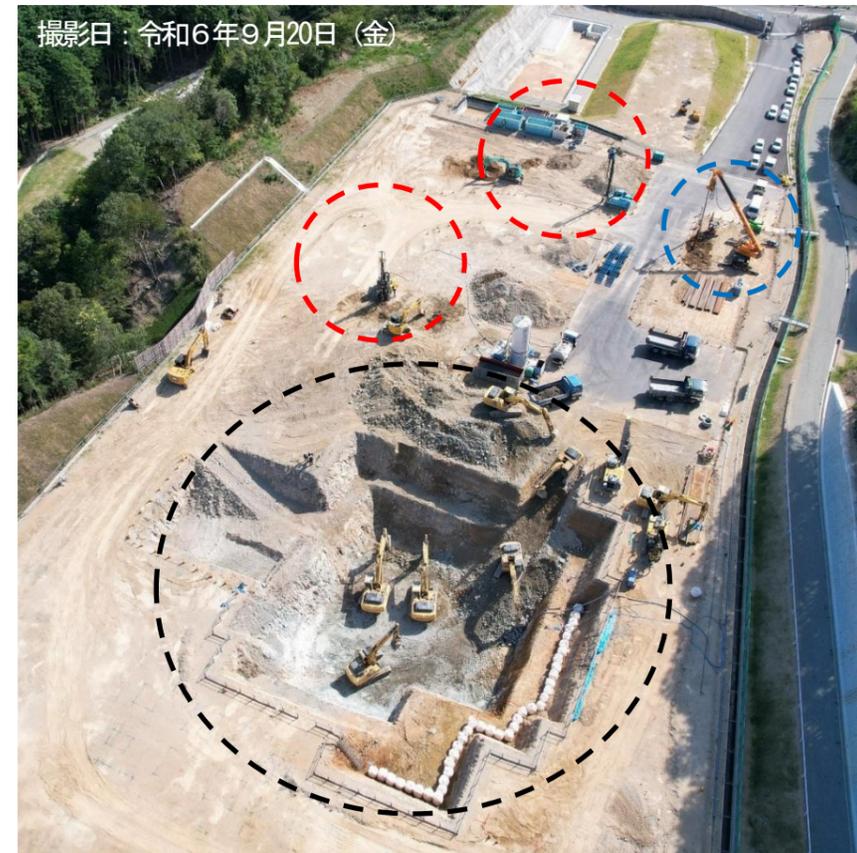
撮影日：令和6年9月20日 (金)



《工事現場の状況》

ごみピット部の掘削と、柱状の基礎杭の施工、防火水槽部の掘削を行っています。

撮影日：令和6年9月20日 (金)



撮影日：令和6年11月22日（金）



《工事現場の状況》

ごみピット部の壁を造っています。雨水貯留槽（コンクリート2次製品）を据え付けています。

撮影日：令和7年1月27日（月）



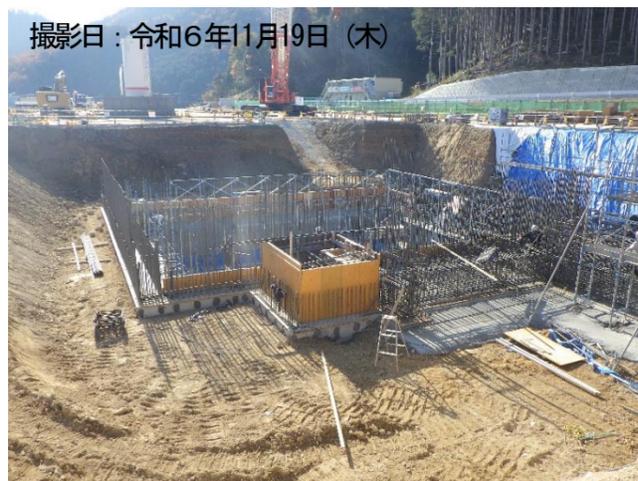
《工事現場の状況》

雨水貯留槽（コンクリート2次製品）の設置と再燃焼室の組立が完了しました。

撮影日：令和6年11月12日（火）



撮影日：令和6年11月19日（木）



撮影日：令和6年12月2日（月）



撮影日：令和6年12月23日（月）



炉(燃焼室)の中で燃え切らなかったガスを高温で再度燃やして完全燃焼させるための設備で、2基設置します。

建物(ごみ処理施設棟)の施工に併せて設置します。

撮影日：令和7年3月25日（火）



撮影日：令和7年5月23日（金）



《工事現場の状況》

ごみ処理施設棟の施工（鉄骨の組立）をしています。

《工事現場の状況》

管理啓発棟の鉄骨の組み立てがほぼ完了しました。

撮影日：令和7年4月10日（木）

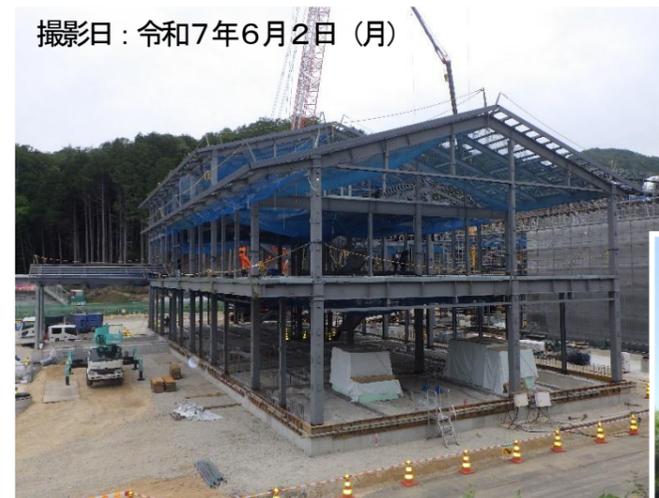


〔鉄骨組立全景〕

クレーン車が活躍しています。



撮影日：令和7年6月2日（月）



《工事現場の状況》

ごみ処理棟の施工（プラント設備の設置）をしています。



撮影日：令和7年5月8日（木）

ろ過式集じん機
ガス冷却室
再燃焼室

撮影日:令和7年7月30日(水)



《工事現場の状況》

プラント設備の据え付けが進んでいます。

破碎鉄バンカほか、3種類のバンカを設置しています。



撮影日:令和7年7月17日(木)



撮影日:令和7年7月17日(木)

《工事現場の状況》

管理啓発棟で各階の天井裏に様々な配管工事をしています。

撮影日:令和7年7月16日(水)



《工事現場の状況》

ごみ処理施設棟で煙突部の工事が始まりました。

四角い筒の中に丸い筒(いわゆる“煙突”《煙は出しません》)を2本設置します。

高さは地面から約59m(筒そのものは約54m)です。

撮影日:令和7年7月30日(水)



工事の令和7年7月末時点の進捗は、

計画で56%、実績は55%となっており、

ほぼ計画どおりに進んでいます。



撮影日:令和7年7月30日(水)